

地域おこし 協力隊通信



地域おこし
協力隊員

奥村 純一
(移住支援担当)

こんにちは、地域おこし協力隊の奥村です。さて私の活動の目的は地域の活性化で、イベントの開催をしているのは都度ご報告しておりますが、移住促進移住相談という仕事もあります。同僚の松藤さんと役場に連絡のあった移住希望者や、知人経由などの個人的な関係などさまざまな相談があります。

そうした相談者は、テレワークが可能なのか、子育てはうまくできるのか、または、余暇を過ごす、趣味を楽しめる場所として、集合住宅ではなく一軒家の賃貸物件情報を求めてきます。しかし、町は空き家だらけなのに、賃貸物件はゼロ、皆無です。理由として中には荷物がまだ残っているから貸せないということが多いように感じるのと、周辺には親せき縁者も多く世間体もあるのでしょうか。また、高齢で片付けができないという切実な事実も間違いはないでしょう。

これは皆野町に限らず全国で抱えている問題でもあります。京都市などは空き家問題打開へ向け2026年度から「空き家税」を創設。放置家屋に対して課税することを発表、これにより、ほか自治体も同様の動きが高まることは必至です。

それに対し、そうした賃貸目的とした物件の片付け費用の補助金制度や、移住者が空き家に住むために必要な空き家の改修費を全額ではないにしても負担するなどを行なっている自治体も増えてきております。

私が行なっているクラシックカーでのイベントも皆野町の認知度を上げて、この町に興味を持ってもらい、そうした移住先二拠点生活の場所として候補地として意識してもらうためです。お隣の小鹿野町は過去に行なったオートバイによる町おこしの効果は今でもあります。秩父路へのツーリングの目的地として今も多くのライダーが小鹿野町を目指しています。

これまで行なった皆野町でのイベント開催は「長瀬は知っているけど皆野なんてあった?」「カインチョウ」「秩父市皆野」から少しは「皆野町」を認識してくれるようになったと自負しており、小鹿野町の例にもあるようにイベント開催時以外にも目的地となってもらえることを目指します。

そして、地域の子もたちに

向けても、楽しい思い出となり、将来この地域に居続けたいと思う楽しい記憶を感じてもらいたいと、道の駅みなの10周年のイベントにはクラシックカーのブースを出店。皆野町にも営業所のある日本コークスの古茶社長は、かつて自動車競技を経験し活躍したことから、私のクルマでの活動に興味を持ち、賛同してくれています。今回のイベントにもボランティアとして協力していただき、ミニ四駆のコースを貸し出し自ら子どもたちの手にミニ四駆を握らせ盛り上げてくれました。また仕事仲間の堀口カメラマンは、仲間たちが展示してくれたクルマを背景に、シートに座つてもらい記念撮影。それを缶バッジにしてプレゼント。きつと育つた町の記憶の一つとして残ってくれるでしょう。

この4月から柴崎さんが町民によって新町長に選ばれました。新しいアイデア、実行力を期待した結果ではないでしょうか。そして、それを我々、町民も傍観し噂話をするのではなく皆野町の全国での立ち位置を意識し、積極的に協力することが過疎化という現状を少しでも打ち破るのではないかと考えております。就任後すぐにウクライナ救済のコンサートを開催、先だつて行なった私の活動「皆野サンデーラリー秋」には、全国から集まった参加者を1日中出迎えてくれ、翌日には町民から柴崎町長に提案があった「次回以降の開



ミニ四駆楽しいな♪

催に参加車両による町内パレードの実施について」計画するよう依頼を受けました。即実行というスタンスの柴崎町長に期待すると同時に、我々町民もより良い町となるよう理解し協力していきたいですね。

クラシックカーと記念撮影!!

